

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275690028		
法人名	有限会社 ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム浜岡の家 (1階、2階、3階)		
所在地	静岡県御前崎市池新田2104-1		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2275690028&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で暮らし続けられることを目標に次のことを大切にしています。
 ①鍵を掛けずに開放的にする。
 ②行動の制限はしない。
 ③三つの奨励
 (イ. よく歩くこと ロ. よく笑うこと ハ. よくお喋りしあうこと)
 ・一人ひとりがその人らしい生活を楽しむことができるよう援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれた昔ながらの暮らしがあるなかにあり、家族や利用者が思いおもいに行き来していて、オープンな雰囲気に溢れた事業所である。週に3回ある食材の買い出しでは、大型スーパーに向き「色鮮やかな季節の食品を五感で楽しみ」「馴染みの人との出会いで和み」「歩行訓練で足腰を鍛え、かつ熟睡する」ことができており、利用者も楽しみの一つとしている。事業所だよりの「浜岡の家」の題字は利用者が書道の時間に書いたもので、順番に掲載して、本人の自己有効感を醸成している。また、館内放送も利用者の担当があり、当初はペーパーを読んでいたそうであるが、調査訪問時はそらでアナウンスしていて壮健さに驚かされた。利用者の目に見えない能力を引き出すことに優れている事業所であることを昨年に引き続き視認した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月一回の全体職員会議、朝礼、勉強会等で法人の理念及びホーム独自の理念の共有を図り、利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるよう努めている。	手なれた様子の包丁さばきをみせる人、懐メロに聞き入る人、職員の手引きを得て身体を動かす人がいて、ほかにも職員を交えて会話を楽しむ様子もみられ、訪問時にも「ゆったりと」「楽しく」「自由でありのまま」で暮らすことができていることが視認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩、買い物等外出の機会を多く持ち、地域の人達との日常的な交流を大切にしている。地域の行事にも積極的に参加したり、ホーム行事への参加も呼びかけている。	近隣の皆さんには散歩の折に声をかけてもらったり、また花をもらうこともあり、好意的に受け入れてもらっている。また、買い物では友人や親戚の人と出会うこともあり、立ち話を楽しむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人を抱える家族の相談を応じたり、運営推進会議メンバーに、認知症高齢者の理解、支援方法など、ホームのケアの姿勢を中心に伝達し、その他介護全般の学習や質問に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時対応についての相談をしたり、アドバイスや支援をいただいた。インシデント、事故報告、苦情共有を図る事で入居者の施設での生活支援を振り返る事ができた。	月2回の開催を続けている。看護師を招いて感染症対策の講習会を開催したり、事業所のケアマネージャーが認知症について講話したりと、運営推進会議の内容を充実させることにも尽力している。	新管理者が最近まで職員であった経験から、職員が参加することで情報の共有化や研鑽があると考えるところであるので、ぜひ実現を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括主催の施設ケアマネ連絡会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。運営推進会議に参加いただき、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議の開催日を合わせたり、内容についてアドバイスをもらうなどして、関係を深めることに努めている。ほかにも、市が主催する研修会などには必ず参加していて、情報を共有できるよう心がけている。包括の依頼により事業所のケアマネージャーが研修会の講師を務めたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解はあるが、スピーチロック等精神面の拘束については、職員会議や朝礼など、時あるごとに勉強会を開き、職員の理解を深めるよう取り組んでいる。	大切なことであるので会議で必ず話し合っていて、定期的に職員が振り返ることができる機会も持っている。知識とともに実践に凸凹があることが課題であると管理者は捉えていて、まずは禁句集を作成することを予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成し、職員一人ひとりに学ぶ機会を設けている。ケアに対しては、日常的に職員同士注意喚起するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム全体で学ぶ機会は持っていない。職員が個人的に資料を読んだり、研修会に参加する程度です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一通り利用者の家族に説明し、理解、納得を頂いている。家族にとって日常的な内容でないため、十分理解を得られているかどうかは不明であるが、不安や疑問点については、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等どんな小さなことでも聞いていくよう努めている。また、利用者や家族からの意見や苦情にも真摯に向き合うように努めています。玄関に苦情、意見箱を設置。	多くは面会時であるが、家族は細かな点においても提案や意見を言ってくれ、時にはお小言ももらえていて、言ってもらえやすいということが事業所のプラスになっている。	家族の参加者数を増やすためにも、議事録を家族へ届けることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員会議、各ユニットのミーティングを通して、意見や提案を聞いている。	オープンで自由な風土のなかで職員は忌憚のない意見を言っている。言ったからといってすべて実現するわけではないが、実現率に影響されることなく率直な意見がでることは安心材であると管理者は捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部が就業規則の中で職員が働きやすい環境条件など、その都度整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内規定の研修、外部研修など参加している。ホーム内でも講師を呼んで研修会を開いたり、職員会議の際テーマを決めて、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に開設している他のホームの管理者と月二回会議を設け、意見交換している。地域の介護施設主催の講演会に参加している。		

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に徹底して個別対応を行い、関わりを深め一人の人として、受け取るように努め、本人が安心できる環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や困り事、家族の要望を受け止め、それを含め本人の支援に努める。その結果、サービス利用の効果と思われる事や、本人の良い所を積極的に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接で本人・家族の意向、現在利用しているサービス内容やその時の様子、本人が大事にしている事などから情報収集し、本人に寄り添いながら、何が必要なのか見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援をせず、本人ができること、できないこと、やりたい事、嫌なことを把握し、本人がいきいきできる場面を数多く作りだせるよう支援している。 □		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや生活の様子、いきいきした表情や言葉を面会時や電話で伝え、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。また、家族の面会時には、本人と穏やかに過ごせる様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生まれた所、長く生活してきた所に出かけたり、面会をお願いしている。買い物やドライブで声を掛けられる事も多くある。	家族に日頃の様子を知ってもらえるよう思い出のアルバムを個々に作っている。また、墓参りや遠出の外出は家族に協力をお願いすることで、家族との時間がもてるようにしている。ほかにも、家族に送る行事へのお誘いを職員が支援することで利用者本人に書いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の活動や昔からの行事に取り組みながら、気の合う人同士の関係を築く支援を行っている。コミュニケーションがうまく図れない入居者に対しては、職員がさりげなく間に入って支援している。		

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談に対しては真剣に受け止め、必要に応じ支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1の関わりを大切に、本人の思いを感じるように心掛けている。できる限り本人の思いに沿って支援しているが、共同生活の中で本人の満足する支援が十分にできないのが課題。	言動や心身状態の変化や気づきについては「介護詳細(ノート)」に記録し、日々のケアサービスやプランに反映させている。また、モニタリング実践記録表にADLの項目があり、月1回アセスメントがおこなわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の情報を家族や在宅サービス利用時の担当者から聞き取りをしたり、日々の暮らしの中で何気ない言葉にも注目するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のあいさつはひとり一人の顔を見ながら行い、体調等の把握に努めている。それに伴い、その日、その時で何が出来るか、したいのかを見極めるよう努めている。介護記録、健康チェック、排泄表の確認。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを聴き取り職員の意見も参考にしながら、アセスメントに基づいた計画書を作成している。常に情報の共有をしながら、些細な変化にも対応していくように努めていく。	3ヶ月毎に職員で話し合った内容がモニタリング会議録に記載され、それを基に計画作成担当者がプラン化している。ただし、大半の職員がプラン化できるまでに成長しており、本人担当が作成する場合もある。プランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、その日の状態や変化、気づき、対応を具体的に個人記録に記述し、情報の共有とケアの工夫、統一を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じ、外出や外泊、外食を行っている。また、病院、提携医への受診支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の介護施設主催の映画会、夏祭り等の誘いも受け参加している。地域交流の情報提供も見逃さず、自己選択の場を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは常に連携が取れている。本人、職員、家族、医療機関との情報共有や指示・説明は常に行っている。	協力医とともに眼科などの専門医も日勤職員が受診支援していて、医師からの指示や投薬変更などは「介護詳細(ノート)」に記録し、情報の共有化を図っている。医療情報は個人ファイルに記載し、救急搬送などの際にはすぐに取り出せるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とも常にコミュニケーションを図るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ早期退院できるよう、病院関係者、家族、事業所が一堂に話し合いを持つように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合終末期のケアについては、かかりつけ医との連携を密にし、家族との話し合いも繰り返し行っている。	家族から「ぜひ事業所でお願いしたい」という声があがっていて、事業所としてもお役に立ちたいと考えている。ただし、協力医療機関が24時間対応ではないこともあり、ケースバイケースの取り組みとなるため、家族と都度話し合うことを大切にしている。	現在の条件のなかで想定できる課題パターンについて、職員で話し合いを重ね合意による解決があることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じ、家族、医師、事業所で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル、防災委員が主になり、定期的に避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	地域の防災訓練には利用者とともに参加しているが、事業所の訓練に地域住民の参加実績はまだない。これまでの訓練では職員の連携の足りなさが反省点としてあがっていて、今後の課題としている。	

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として接し、さりげない介助、ことばかけに配慮して、礼儀をもって接するようにしている。	利用者の部屋は一軒の家とみていて、本人の許可を得てから入室するよう指導しているが、すべての職員に浸透しきれていないことが課題としてある。今後はさらに繰り返し、会議で話し合っていくこととしているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の「やりたい」という気持ちを大切に、日常生活、趣味、娯楽など、本人の希望にそって支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメント、ケアプランに基づき、日々寄り添う中で、その人のペースを把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に自由な服装選び、買い物による購入、白髪染めのお手伝い等の身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、一緒に食事の準備や片付けを行っている。各自希望を聞きながら献立を決めて食材の購入に出かけたり、時々外食にも行っている。	調理から下膳、洗い物まで利用者が手伝っていて、職員と利用者の協働ができています。利用者と職員とテーブルを囲み、誰が何を担当してどうだったかなど調理を話材にして、賑やかな食事風景が広がっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表の食事量、水分量、排便状況を把握し、一人ひとりの健康状態に応じて支援している。また、食材提供先より栄養摂取等、バランスなどについて情報を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、歯みがき、義歯の手入れ支援を行っている。食後のうがい、就寝時義歯の洗浄を行っている。		

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用した排泄パターンの把握、不快感を感じない排泄案内を心掛けている。	トイレでもらうことを方針としており、タイミングのよい誘導に努めていて、改善向上した利用者もいる。紙パンやパットは消耗品なので家族の費用負担も考慮するとともに、本人に気持ちよく過ごしてもらえることを大切にして、職員で話し合いを繰り返している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、適度な水分摂取や運動等で体を動かすこと、排便時間に合わせてゆっくりトイレに座れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるようプライバシーを尊重しながら介助している。個々の好み、体重に合わせて、時間、回数、長さ等配慮している。	1日おきに湯をはっていて、ほぼ全員がその日に入浴している。職員と歌を唄ったり、会話を楽しんでいるという。入浴剤は米ぬかを使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由な就寝時間を実施している。その日の緊張や疲労の程度に応じ、休息や適度な昼寝の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服している薬の内容を把握した援助を行っている。症状の変化、体調の変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事、わかる事等を把握し、状況に応じて、畑仕事や家事等の役割支援している。園芸、飼育等の趣味活動、昔からの行事の支援を積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩等の外出支援を積極的に行っている。特に散歩、外気浴は日常的に行っている。地域行事への参加、家族との外出も積極的に支援している。	週に3回ある食材の買い出しには利用者にも同伴してもらっていて、日用品や趣味のものなど利用者も買い物を楽しんでいる。心身状態によっては散歩や買い物を控えることもあるが、「1日1回は戸外へ」を旨としていて玄関先のベンチで外気浴をしてもらっている。	

自己評価および外部評価結果

1号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて、買い物や外出受診の際、見守りの中で、本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応している。夏祭り等の行事の際には、家族にはがきを書いて出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、共有スペースには季節の花、盆栽や壁面、利用者の作品を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。毎日の散歩前後の休憩場所として玄関先にベンチを置き、日向ぼっこをしながらの触れ合いの場となっている。	朗らかな職員の笑顔や声とともに利用者の元気な様子が伝わってきて、共用空間にはエネルギーがみなぎっている。季節の風物や外出時の写真が飾られ、それらも話材となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間にソファを置き、利用者同士で思い思いに過ごせる居場所であり、その場が他の人の気配を感じ落ち着いて過ごせる場所ともなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていたなじみの家具等を持ち込んでいる人もいるが、それぞれの事情で持ち込んでいない人もある。好みのもの(カレンダー、写真等)を飾っている人もいる。	テレビや小型冷蔵庫、筆筒など、それぞれが暮らしに必要と感じているであろうものが置かれ、また洗濯好きな人は洗濯グッズが、編み物が趣味の人は編み物セットがあって、生活を楽しんでいる様子も覗える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりを設置しており、安全にかつゆっくりでも自分のペースで移動できるよう見守り支援している。自室やトイレが分かるよう表示をしている。		

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、朝礼等で理念の共有を図り、「利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができる」よう実践につなげている。	手なれた様子の包丁さばきをみせる人、懐メロに聞き入る人、職員の手引きを得て身体を動かす人がいて、ほかにも職員を交えて会話を楽しむ様子もみられ、訪問時にも「ゆったりと」「楽しく」「自由でありのまま」で暮らすことができていることが視認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や買い物等外出の機会を多く持ち、日常的な交流を大切にしている。産業祭・病院祭・映画祭など地域の催しに積極的に出向くとともに、夏祭り・敬老会・運動会などホーム行事へ地域の皆さんに参加してもらっている。	近隣の皆さんには散歩の折に声をかけてもらったり、また花をもらうこともあり、好意的に受け入れてもらっている。また、買い物では友人や親戚の人と出会うこともあり、立ち話を楽しむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を抱える家族の相談に応じたり、運営推進会議のメンバーに認知症高齢者の理解、支援方法をホームのケア姿勢を中心に伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害対応やホーム行事について相談し、アドバイスや支援を頂いている。インシデント、アクシデント、苦情内容を公表し、話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	月2回の開催を続けている。看護師を招いて感染症対策の講習会を開催したり、事業所のケアマネージャーが認知症について講話したりと、運営推進会議の内容を充実させることにも尽力している。	新管理者が最近まで職員であった経験から、職員が参加することで情報の共有化や研鑽があると考えるところであるので、ぜひ実現を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ホーム行事に参加して頂き、協力関係を築く様になっている。	運営推進会議の開催日を合わせたり、内容についてアドバイスをもらうなどして、関係を深めることに努めている。ほかにも、市が主催する研修会などには必ず参加していて、情報を共有できるよう心がけている。包括の依頼により事業所のケアマネージャーが研修会の講師を務めたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解はある。常にミーティング等で話し合っているが、スピーチロック等精神面の拘束についての自己覚知が不十分。	大切なことであるので会議で必ず話し合っていて、定期的に職員が振り返ることができる機会も持っている。知識とともに実践に凸凹があることが課題であると管理者は捉えていて、まずは禁句集を作成することを予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員一人ひとりに学ぶ機会を設けている。ケアに対しては、日常にお互い注意喚起するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が個人的に研修へ参加している程度。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ひととおり利用者の家族に説明し、理解、納得を頂いている。家族にとって日常的な内容でないため、十分理解を得られているかどうか不明であるが、不安や疑問点については、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等些細なことにも耳を傾ける姿勢で取り組んでいる。利用者や家族からの意見や苦情には真摯に向き合うようつとめている。 玄関に苦情、意見箱を設置。	多くは面会時であるが、家族は細かな点においても提案や意見を言ってくれ、時にはお小言ももらえていて、言ってもらえやすいということが事業所のプラスになっている。	家族の参加者数を増やすためにも、議事録を家族へ届けることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員会議、各ユニットのミーティングを通じ、意見や提案を聴いている。	オープンで自由な風土のなかで職員は忌憚のない意見を言っている。言ったからといってすべて実現するわけではないが、実現率に影響されることなく率直な意見がでることは安心材であると管理者は捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部が就業規則の中で、職員が働きやすい環境条件など、その都度整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へは、サービスの質の向上のために法人内外の研修を受けることを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の病院や介護施設主体の講演会に参加している程度。		

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は徹底した個別対応を行い、関わりを深め不安なことや要望等に耳を傾けながら、場面、場面では必要なケアを行い、本人の安心できる環境づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等を受け止めながら、それを支援につなげている。 本人の良いところを積極的に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接で、家族、本人の意向、現在利用しているサービス内容やその時の様子、本人が大事にしていることなど情報収集し、本人に何が必要か見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること、できないこと、やりたいこと、嫌いなことを把握し、本人が自分のペースで楽しく活動、生活できるような支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いやいきいきとした表情やことば等生活の様子を面会時や電話で伝えることで、家族とともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の故郷や思い出の場所等には機会あるごとに出かけている。面会もお願いしている。ドライブや買い物の途中で声かけられることもある。	家族に日頃の様子を知ってもらえるよう思い出のアルバムを個々に作っている。また、墓参りや遠出の外出は家族に協力をお願いすることで、家族との時間がもてるようにしている。ほかにも、家族に送る行事へのお誘いを職員が支援することで利用者本人に書いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の活動やお茶の時間、食事時間を主に職員が懸け橋となって、昔の話、歌を通して、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談に対しては真摯に受け止め、必要に応じて支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1の関わりを大切に、本人の思いを感じるよう心がけ、出来る限り本人の思いに沿って支援しているが、共同生活の中で、本人の満足する支援が十分できない。	言動や心身状態の変化や気づきについては「介護詳細(ノート)」に記録し、日々のケアサービスやプランに反映させている。また、モニタリング実践記録表にADLの項目があり、月1回アセスメントがおこなわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時前本人や家族、在宅サービス利用時の担当者から聞き取りをしたりし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時一人ひとりの体調等の把握に努めている。暮らしの中で出来る事、わかる事、したいことを見極めるよう努めている。介護記録、健康チェック、排泄表の確認を行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを聴き取り、職員の意見も参考にしながら、アセスメントに基づいた計画書を作成している。常に情報を共有しながら、些細な変化にも対応していくよう努めている。	3ヶ月毎に職員で話し合った内容がモニタリング会議録に記載され、それを基に計画作成担当者がプラン化している。ただし、大半の職員がプラン化できるまでに成長しており、本人担当が作成する場合もある。プランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき対応を具体的に個別記録に記述し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて、外泊、外出、外食を行っている。 病院受診支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域情報誌や新聞等で地域交流の場を見逃さず、情報提供にて、自己の選択の場を設けている。 地域の介護施設主催の映画会の誘いも受け、定期的に鑑賞している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは常に連携がとれている。本人、職員、医療機関との情報共有や指示、説明は常に行っている。	協力医とともに眼科などの専門医も日勤職員が受診支援していて、医師からの指示や投薬変更などは「介護詳細(ノート)」に記録し、情報の共有化を図っている。医療情報は個人ファイルに記載し、救急搬送などの際にはすぐに取り出せるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とも常にコミュニケーションを図るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、できるだけ早期に退院できるように病院関係者、家族、事業所が一同に話し合いを持つよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のケアについては、かかりつけ医との連携を密にし、家族との話し合いも繰り返している。必要に応じ、家族、医師、事業所で話し合いをしている。都度ケア内容を職員間で確認合っている。	家族から「ぜひ事業所でお願いしたい」という声があがっていて、事業所としてもお役に立ちたいと考えている。ただし、協力医療機関が24時間対応ではないこともあり、ケースバイケースの取り組みとなるため、家族と都度話し合うことを大切にしている。	現在の条件のなかで想定できる課題パターンについて、職員で話し合いを重ね合意による解決があることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを作成し、研修、訓練をおこなっている。 夜間、不安を感じている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル、防災委員が主になり定期的に避難訓練を行い利用者が安全に避難できる方法を職員が身につけている。 地域との協力体制も運営推進会議等で築いている。	地域の防災訓練には利用者とともに参加しているが、事業所の訓練に地域住民の参加実績はまだない。これまでの訓練では職員の連携の足りなさが反省点としてあがっていて、今後の課題としている。	

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、言葉かけ等接する態度に注意を払っている。 特に排泄介助にはプライドを損ねないよう言葉かけや対応に配慮している。	利用者の部屋は一軒の家とみていて、本人の許可を得てから入室するよう指導しているが、すべての職員に浸透しきれていないことが課題としてある。今後はさらに繰り返し、会議で話し合っていくこととしているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような言葉かけを行い、本人の希望に沿って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのできる事、わかる事、したい事、その人のペースを把握するよう努め、役割を持ち、その人のペースでその人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に自由な服装選び、買い物による購入、馴染みな理容、美容院の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、一緒に準備や片付けを行っている。 各自の希望を聞き、献立を決めて食材の購入に出かけたり、外食にも行っている。	調理から下膳、洗い物まで利用者が手伝っていて、職員と利用者の協働ができています。利用者職員とテーブルを囲み、誰が何を担当してどうだったかなど調理を話材にして、賑やかな食事風景が広がっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表に食事量、水分量、排便などを把握し、一人ひとりの健康状態に応じて支援している。 食材提供先より栄養摂取量、バランスなどについて情報を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日歯磨き、義歯の手入れの支援を行っている。食後のうがい、就寝時義歯の洗浄を行っている。		

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、定時の声かけ案内でのトイレでの排泄や、排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでもらうことを方針としており、タイミングのよい誘導に努めていて、改善向上した利用者もいる。紙パンやパットは消耗品なので家族の費用負担も考慮するとともに、本人に気持ちよく過ごしてもらえることを大切にして、職員で話し合いを繰り返している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、適度な水分摂取、運動への働きかけ等一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は4回/週、午後となっており、その中で入浴を楽しめるようプライバシーを尊重しながら支援している。 一人ひとりの体調に合わせ、時間、長さ、回数等に配慮している。	1日おきに湯をはっていて、ほぼ全員がその日に入浴している。職員と歌を唄ったり、会話を楽しんでいるという。入浴剤は米ぬかを使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由な就寝時間を実施している。 睡眠パターン、日中の行動を把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 その日の緊張感や疲労の程度に応じ、適度な休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の内容を把握し、服薬の支援と症状の変化、体調の変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事、わかる事等を把握し、状況に応じて、畑仕事や家事等の役割支援している。 園芸、飼育等の趣味活動、昔からの行事の支援を積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常の日課となっている。 一人ひとりのその日の希望に沿った外出ができるよう支援に努めている。 普段は行けない場所へも希望を把握し、出かけていけるよう支援している。家族との外出も積極的に支援している	週に3回ある食材の買い出しには利用者にも同伴してもらっていて、日用品や趣味のものなど利用者も買い物を楽しんでいる。心身状態によっては散歩や買い物を控えることもあるが、「1日1回は戸外へ」を旨としていて玄関先のベンチで外気浴をしてもらっている。	

自己評価および外部評価結果

2号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて、買い物や外出受診の際、見守りの中で、本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話の取り次ぎなどの支援は行っている。 手紙は字を書けない利用者が多いため行ってはいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、共有スペースには季節の花、盆栽や壁画を飾り、心地よく過ごせる様工夫している。 玄関の入口にはベンチを置き、毎日の散歩時の利用者の休息の場であり、ふれあいの場所としている。	朗らかな職員の笑顔や声とともに利用者の元気な様子が伝わってきて、共用空間にはエネルギーがみなぎっている。季節の風物や外出時の写真が飾られ、それらも話材となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間にソファを置き、利用者同士で思い思いに過ごせる居場所であり、その場が他の人の気配を感じ落ち着いて過ごせる場所ともなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていたなじみの家具などを持ち込んでいる。 カレンダーや写真など飾っている。	テレビや小型冷蔵庫、筆筒など、それぞれが暮らしに必要と感じているであろうものが置かれ、また洗濯好きな人は洗濯グッズが、編み物が趣味の人は編み物セットがあって、生活を楽しんでいる様子も覗える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりを設置しており、安全にかつ自立した生活が送れるよう支援している。 わからないことはいつでも気兼ねなく聞く事ができるような関係支援。		

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、朝礼等で法人の理念及びホーム独自の理念の共有を図り、利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるよう努めている。	手なれた様子の包丁さばきをみせる人、懐メロに聞き入る人、職員の手引きを得て身体を動かす人がいて、ほかにも職員を交えて会話を楽しむ様子もみられ、訪問時にも「ゆったりと」「楽しく」「自由でありのまま」で暮らすことができていますことが視認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物等外出の機会を多く持ち、地域の人達との日常的な交流を大切にしている。地域の祭典やイベント、他の介護施設の行事にも積極的に参加している。ホーム行事への参加も少しづつ呼びかけている。	近隣の皆さんには散歩の折に声をかけてもらったり、また花をもらうこともあり、好意的に受け入れてもらっている。また、買い物では友人や親戚の人と出会うこともあり、立ち話を楽しむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、ホームでの支援内容を通して、認知症高齢者の理解や支援方法を伝えている。また、昨年市包括支援センター主催の認知症の家族を抱える家族を対象に行った講話をきっかけに、入所の相談、見学、介護相談に訪れる方が増えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は災害時の対応についての助言をいただき、実際に自主防災訓練に参加させていただいた。 また、インシデント、アクシデント報告、苦情内容を公表し、利用者のあたりまえの暮らしを支えるための姿勢を振り返る事ができた。	月2回の開催を続けている。看護師を招いて感染症対策の講習会を開催したり、事業所のケアマネージャーが認知症について講話したりと、運営推進会議の内容を充実させることにも尽力している。	新管理者が最近まで職員であった経験から、職員が参加することで情報の共有化や研鑽があると考えるところであるので、ぜひ実現を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市包括支援センター主催の施設ケアマネ連絡会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。 運営推進会議やホーム行事に参加いただき、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議の開催日を合わせたり、内容についてアドバイスをもらうなどして、関係を深めることに努めている。ほかにも、市が主催する研修会などには必ず参加していて、情報を共有できるよう心がけている。包括の依頼により事業所のケアマネージャーが研修会の講師を務めたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1年に2回法人の研修会の中で学んでいる。身体拘束について理解しているが、どこまで掘り下げて理解しているかは不明。制止やスピーチロック、指示、命令行為による精神的な拘束について、まだまだ自覚が薄く、職員同士で意識し合う環境になっていない。	大切なことであるので会議で必ず話し合っていて、定期的に職員が振り返ることができる機会も持っている。知識とともに実践に凸凹があることが課題であると管理者は捉えていて、まずは禁句集を作成することを予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に2回法人の研修会の中で学んでいる。また、虐待マニュアルを作成し、職員一人ひとりに学ぶ機会を設けている。 ケアに対しては、日常的に職員同士注意喚起するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム全体で学ぶ機会は持っていない。個人レベルで研修会に参加する程度で、意識も低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一通り利用者の家族に説明し、理解と同意をいただいている。「契約」が日常的な行為になりえていない事もあり、不安や疑問点にはその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等些細なことにも耳を傾けるよう努めている。また、利用者や家族からの意見や苦情には真摯に向き合うよう努めており、気軽に意見を言えるような関係作りにも力を入れている。	多くは面会時であるが、家族は細かな点においても提案や意見を言ってくれ、時にはお小言ももらえていて、言ってもらえやすいということが事業所のプラスになっている。	家族の参加者数を増やすためにも、議事録を家族へ届けることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回開催している職員会議には、法人職員も出席し、情報や意見交換を行っている。また、ユニット会議においても、意見や提案を求めている。	オープンで自由な風土のなかで職員は忌憚のない意見を言っている。言ったからといってすべて実現するわけではないが、実現率に影響されることなく率直な意見がでることは安心材であると管理者は捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部が就業規則の中で職員が働きやすい環境条件など、その都度整備に努めており、内容については、ホームページ(Q&A方式等)や法人職員から直接伝達、説明を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人規定の研修(義務)、外部研修などへの参加を促している。 ホーム内でも、職員会議の中でテーマを決めて勉強会を行っている。今年度は、地域の介護施設の看護師を講師に招き、感染症の勉強会を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が開設しているエリア内の施設管理者が毎月1回会議を行っている。 地域の介護施設主催の講演会等に参加したり、ホーム内でのケアに関する課題について、それ俺の専門家のアドバイスをいただいた。		

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度当ユニットは新規入居者がなかったが、他のユニットの新規入居者の方とも日常的にかかわりを持ち、安心できる顔なじみになるよう努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度当ユニットは新規入居者がなかったが、他のユニットの新規入居者のご家族が来所される時、電話での応対等丁寧にかつ安心して頂けるよう努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時、ご本人が大切にしていることをきちんと理解し、ホームでできる支援を具体的に伝えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援ではなく、本人ができること、できないこと、やりたいこと、嫌なことを把握し、本人がいきいきできる場面を数多く作りだせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや生活の様子、生き生きした表情やことばを伝え、ご家族とともに本人を支えていくよう努めている。それにより、「そういえば、昔は〇〇な人だった」といった話も聞かれ、ケアに生かしている。また、面会時にはゆったり過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	食材の買い物に行く商店や他の外出先で、声をかけてくれる方が多く、中には偶然同級生や親せきということもある。地域に出かけることを大切に支援している。	家族に日頃の様子を知ってもらえるよう思い出のアルバムを個々に作っている。また、墓参りや遠出の外出は家族に協力をお願いすることで、家族との時間をもてるようにしている。ほかにも、家族に送る行事へのお誘いを職員が支援することで利用者本人に書いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の活動や地域の伝統行事に取り組みながら、気の合う人同士で関係が築けるよう支援している。 コミュニケーションがうまく図れない方に対しては、職員がさりげなく間に入るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の同意を得て、移動先の施設へ面会に出かけた。他施設への移転の際は、アセスメントやケアプラン内容を担当者に伝え、本人が大切にしてきた思いをつないでいくよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントツールを一部活用し、日々の暮らしの中での本人のことばや気づきを記録し、職員、家族と情報交換している。モニタリングやプラン見直し、日々のケアに活用している。	言動や心身状態の変化や気づきについては「介護詳細(ノート)」に記録し、日々のケアサービスやプランに反映させている。また、モニタリング実践記録表にADLの項目があり、月1回アセスメントがおこなわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時、ご本人の生活歴等の情報を本人、家族、在宅サービス事業者から聞き取っている。入居後も日々の暮らしの中での何気ないことばにも耳を傾けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時は必ず入居者一人ひとりと挨拶を交わし、その日の状態把握に努めている。介護記録、排泄チェック表、健康チェック表にも必ず目を通し、重要事項は申し送りにて伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にし、毎月介護計画に沿ってモニタリングを行っている。些細なこと、理解できない本人の言動等、家族や職員の情報を合わせながらアセスメントを行い、誰もが分かるその人らしい介護計画の作成に努めている。	3ヶ月毎に職員で話し合った内容がモニタリング会議録に記載され、それを基に計画作成担当者がプラン化している。ただし、大半の職員がプラン化できるまでに成長しており、本人担当が作成する場合もある。プランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は「毎日のモニタリング」の意識を持ち、そこから得た気づきや情報を共有し、ケアに活かしている。介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	疾患の悪化やADL低下で生じるリスクを予測し、早期発見および悪化を防ぐよう、家族、かかりつけ医と連携を図った。また、他施設の専門職のアドバイスを求め、暮らしの中でのケアに活かした。		

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報誌やケーブルテレビ等で地域交流の場を見逃さず、利用者に情報提供し、自己選択の場を作っている。 地域の介護施設主催の映画会の誘いもあり、希望者は定期的に鑑賞している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは常に連携が取れている。本人、職員、医療機関、家族と情報共有に努めている。	協力医とともに眼科などの専門医も日勤職員が受診支援していて、医師からの指示や投薬変更などは「介護詳細(ノート)」に記録し、情報の共有化を図っている。医療情報は個人ファイルに記載し、救急搬送などの際にはすぐに取り出せるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とも常にコミュニケーションを図るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ早期に退院できるよう病院関係者、家族、事業所が一堂に話し合いを持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療の必要な看とりは困難であることを家族に伝え、重度化した場合、終末期のケアについてはかかりつけ医(提携医)との連携を密にし、家族との話し合いも繰り返し行っている。その都度医師の指示を仰ぎ、介護、看護内容を職員間で確認している。	家族から「ぜひ事業所でお願いしたい」という声があがっていて、事業所としてもお役に立ちたいと考えている。ただし、協力医療機関が24時間対応ではないこともあり、ケースバイケースの取り組みとなるため、家族と都度話し合うことを大切にしている。	現在の条件のなかで想定できる課題/パターンについて、職員で話し合いを重ね合意による解決があることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを作成し、研修、訓練を行っているが、不安を感じている職員もいる。 外部講師を招き、感染対策の勉強会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を中心にその時々で設定を変え、定期的に訓練を行っている。 運営推進会議、災害ネットワーク参加等で地域防災への取り組みに参加した。 東北大震災を受け、新たに風水害対策マニュアルを作成、防災無線設置した。	地域の防災訓練には利用者とともに参加しているが、事業所の訓練に地域住民の参加実績はまだない。これまでの訓練では職員の連携の足りなさが反省点としてあがっていて、今後の課題としている。	

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として接し、本人にわかることばでのさりげない介助を心掛け、礼儀を持って接するようにしている。	利用者の部屋は一軒の家とみていて、本人の許可を得てから入室するよう指導しているが、すべての職員に浸透しきれていないことが課題としてある。今後はさらに繰り返し、会議で話し合っていくこととしているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の『やりたい』という気持ちを大切に、日常生活、趣味、娯楽などを本人の希望に沿って支援している。 本人が自分で選び決められるようなことばかけを工夫するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを大切に、日々寄り添う中で、その人のペースを把握するよう努めている。 アセスメントやケアプラン、モニタリングを通じて、一人ひとりのペースを把握した支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に自由な服装選び、商店での衣類購入やなじみの理髪店、美容院の利用を支援している。 髭剃りや、整髪、清潔な衣類の着用等にも配慮した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、一緒に準備や片付けを行っている。本人が自信を持っていきいきできる作業と一緒に、感謝のことばをかけている。入居者の好みの献立を聞きながらメニューを決め、食材購入に出かけたり、外食にも出かける。	調理から下膳、洗い物まで利用者が手伝っていて、職員と利用者の協働ができています。利用者と職員とテーブルを囲み、誰が何を担当してどうだったかなど調理を話材にして、賑やかな食事風景が広がっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表に食事量、水分量、排便を記録し、一人ひとりの身体状況を把握した支援を行っている。 水分を摂らない人、飲み込みに問題がある人等本人が安心しておいしく摂取できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、その人に合った歯みがきや義歯の手入れの支援を行っている。 介助が必要な人、誤嚥のリスクが高い人に対しては丁寧にやっているが、自立している人への支援が薄くなりがちである。		

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握、アセスメントによる個々の習慣やADLに応じて、不快感を持たないよう排泄案内、介助を心掛けている。	トイレでもらうことを方針としてっており、タイミングのよい誘導に努めていて、改善向上した利用者もいる。紙パンやパットは消耗品なので家族の費用負担も考慮するとともに、本人に気持ちよく過ごしてもらえることを大切にして、職員で話し合いを繰り返している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、適度な水分摂取や運動等で体を動かすこと、排便時間に合わせてゆっくりとトイレに座れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるようプライバシーを尊重しながら介助している。個々の好み、体調に合わせた対応をしている。ただし、集団生活の為、時間や回数に制約があり、個々の好みに沿えないこともある。	1日おきに湯をはっていて、ほぼ全員がその日に入浴している。職員と歌を唄ったり、会話を楽しんでいるという。入浴剤は米ぬかを使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由な就寝時間を実施している。個々の睡眠のパターン、日中の行動を把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。夜間せん妄、頻尿等で睡眠が十分取れなかった人に対しては、休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの疾患、内服している薬を把握した援助を行っている。症状の変化や体調の変化も早期に発見し、家族、かかりつけ医と連携を取るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前面接や日々の暮らしの中で得られた情報をもとに、本人がいきいきできる場面を多く作れるよう支援している。できにくくなっていても、本人がやりたいと希望していること等見ながら、畑作業、園芸等個々の好みに合わせた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩等の外出支援を積極的にやっている。特に散歩、外気浴は日常的に行っている。地域行事への参加、家族との外出も積極的に支援している。	週に3回ある食材の買い出しには利用者にも同伴してもらっていて、日用品や趣味のものなど利用者も買い物を楽しんでいる。心身状態によっては散歩や買い物を控えることもあるが、「1日1回は戸外へ」を旨としていて玄関先のベンチで外気浴をしてもらっている。	

自己評価および外部評価結果

3号館

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望に応じ、医療機関での支払い、商店での希望品の購入と支払いを見守りのなか本人が支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ対応している。字が書けない人や、自信のない人に対しては、無理強いせず、日々の暮らしの中で作成した作品等を家族に見ていただいたりしている。希望に応じて電話通話の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、共有スペースには季節の花、盆栽や壁面、利用者の作品を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。毎日の散歩前後の休憩場所として玄関先にベンチを置き、日向ぼっこをしながらの触れ合いの場となっている。	朗らかな職員の笑顔や声とともに利用者の元気な様子が伝わってきて、共用空間にはエネルギーがみなぎっている。季節の風物や外出時の写真が飾られ、それらも話材となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間にはソファーをおき、リラックススペースを作っている。一人になりたい人は、入口付近にソファーを置き、落ち着ける場所を作っている。 居室は個室ではあるが、日中居室で過ごす人は少ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていたなじみの家具等を持ち込んでいる人もいるが、それぞれの事情で持ち込んでいない人もある。好みのもの(カレンダー、写真等)を飾っている人もいる。	テレビや小型冷蔵庫、筆筒など、それぞれが暮らしに必要と感じているであろうものが置かれ、また洗濯好きな人は洗濯グッズが、編み物が趣味の人は編み物セットがあって、生活を楽しんでいる様子も覗える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりを設置しており、安全にかつゆっくりでも自分のペースで移動できるよう見守り支援している。自室やトイレが分かるよう表示をしている。		